

男女共同参画に関する市民意識 アンケート調査報告書 概要版

調査の概要

1 調査目的

男女共同参画に関する市民の意識、意見及び要望を集約、解析することにより、鎌ケ谷市の現状、課題を把握し、次期男女共同参画計画策定のための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の方法

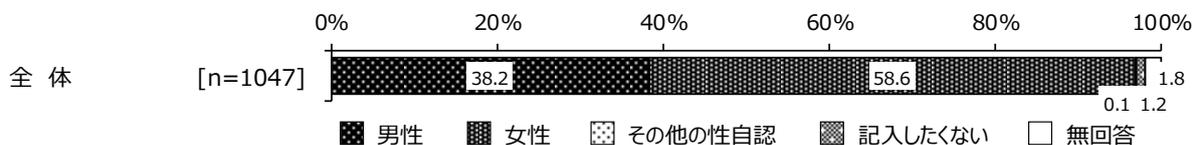
- (1) 調査対象 鎌ケ谷市内に居住する18才以上の市民3,000人(無作為抽出)
- (2) 調査方法 調査票を各戸に郵送し、記入後アンケートを郵送にて回収
- (3) 調査実施時期 令和7年8月15日(金)～9月16日(火)
- (4) 回収結果 総回収数 1,048名 有効回収数 1,047名
有効回収率 34.9%

3 概要版を読む際の注意点

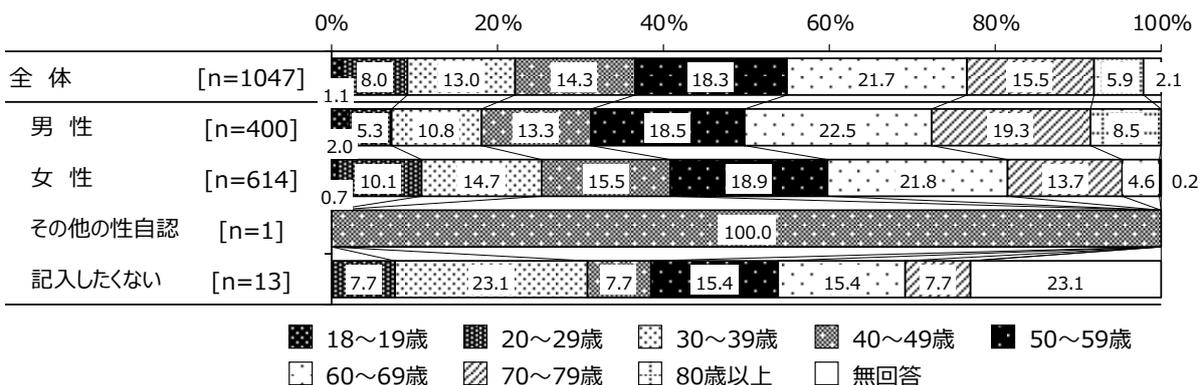
- ・ 前回調査は令和元年10月に実施しており、すべて「前回」と表記する。
- ・ 集計は小数点第2位を四捨五入した。したがって、数値の合計が100.0%にならないことがある。
- ・ 2つ以上の回答をしてもよい質問(複数回答)では、数値の合計が100.0%を上回ることがある。
- ・ 本文やグラフ・数表上の選択肢の表記は、場合により語句を簡略化してある。
- ・ クロス分析の各属性の回答者数の合計は、「無回答」があるため、全回答者数とは一致しない。

回答者の属性

1 性別



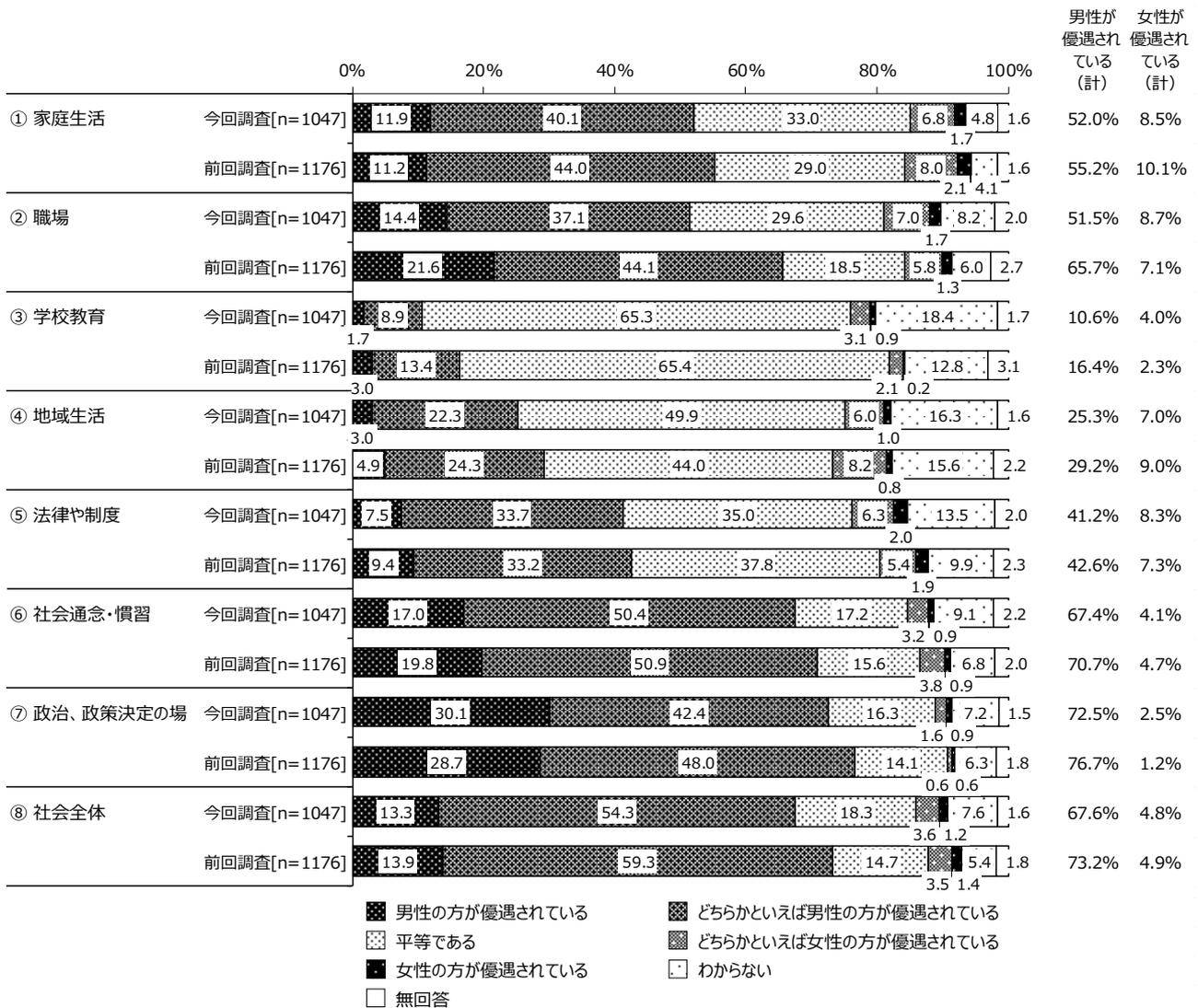
2 年齢



I 男女共同参画社会について

1 男女平等意識

- 『学校教育』、『地域生活』は「平等である」、それ以外は「男性が優遇されている（計）」が最も高くなっている。
- 「男性が優遇されている（計）」は『政治、政策決定の場』で 72.5%、『社会通念・慣習』、『社会全体』で 6 割台となっている。
- 「女性が優遇されている（計）」はすべての項目で 1 割未満となっている。
- 前回と比較すると、「平等である」は『学校教育』、『法律や制度』以外の 6 項目で高くなっており、『職場』は 11.1 ポイント上回っている。一方、「男性が優遇されている（計）」は 8 項目いずれも前回より低く、『職場』は 14.2 ポイント下回っている。

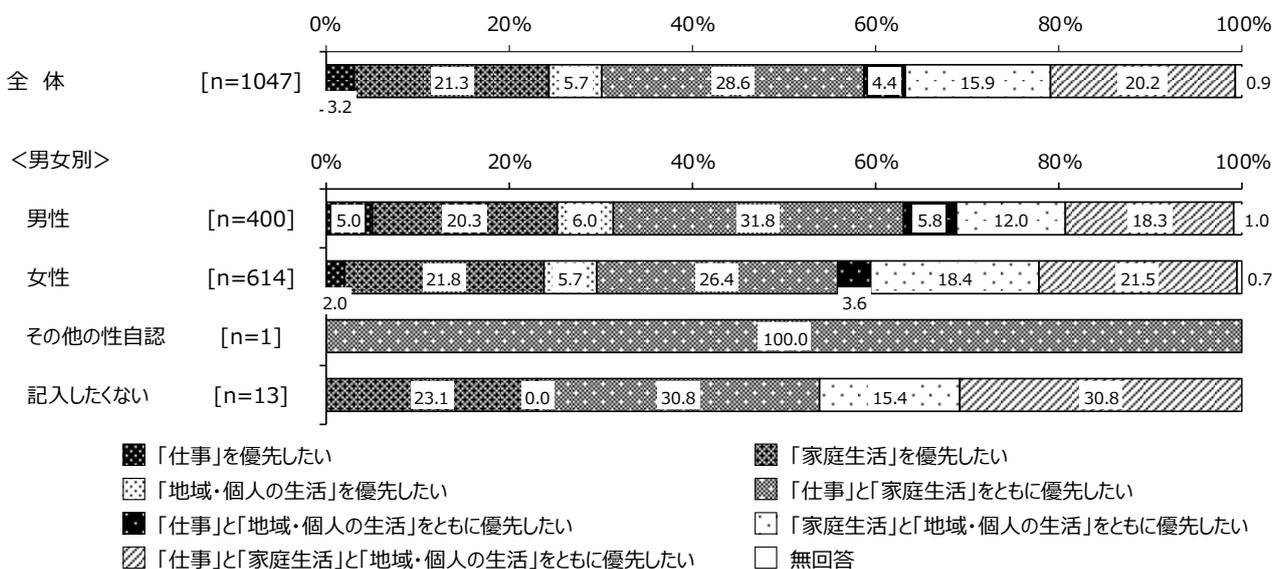


II 家庭生活や働き方について

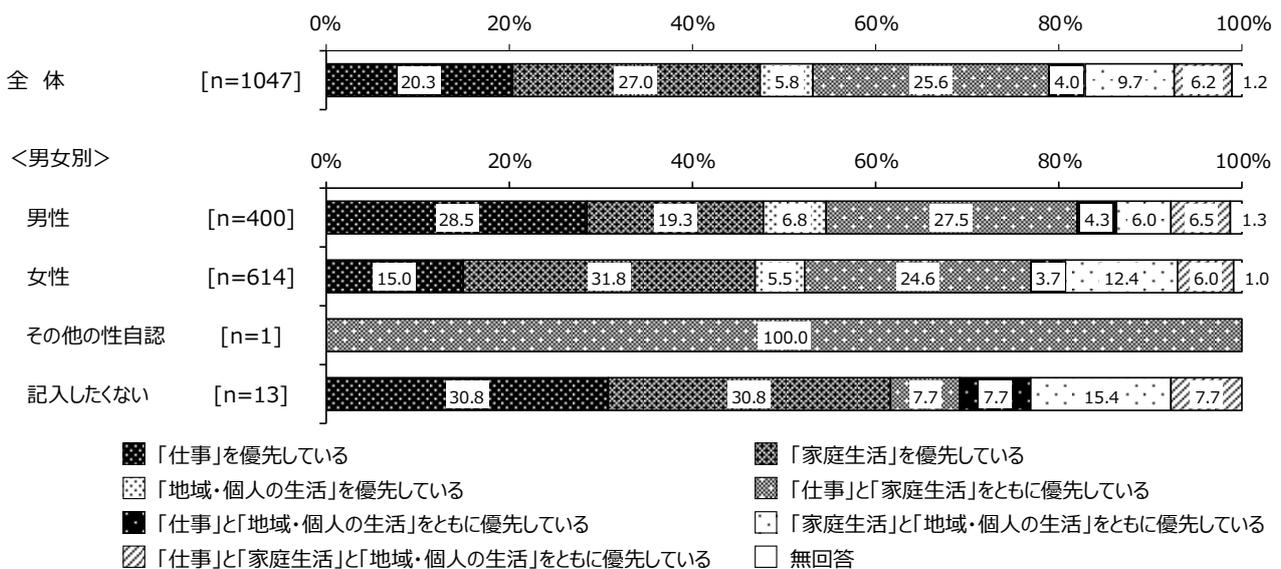
1 仕事と自分の生活のバランスについて

- 希望は、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』が 28.6%で最も高く、次いで『「家庭生活」を優先したい』が 21.3%となっている。
- 現実には、『「家庭生活」を優先している』が 27.0%で最も高く、次いで『「仕事」と「家庭生活」をともに優先している』が 25.6%となっている。男性は『「仕事」を優先している』（28.5%）が最も高くなっている。
- 希望と現実の差については、『「仕事」を優先』は現実（20.3%）が希望（3.2%）より 17.1 ポイント高く、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』は希望（20.2%）が現実（6.2%）より 14.0 ポイント高くなっている。

(1) 希望

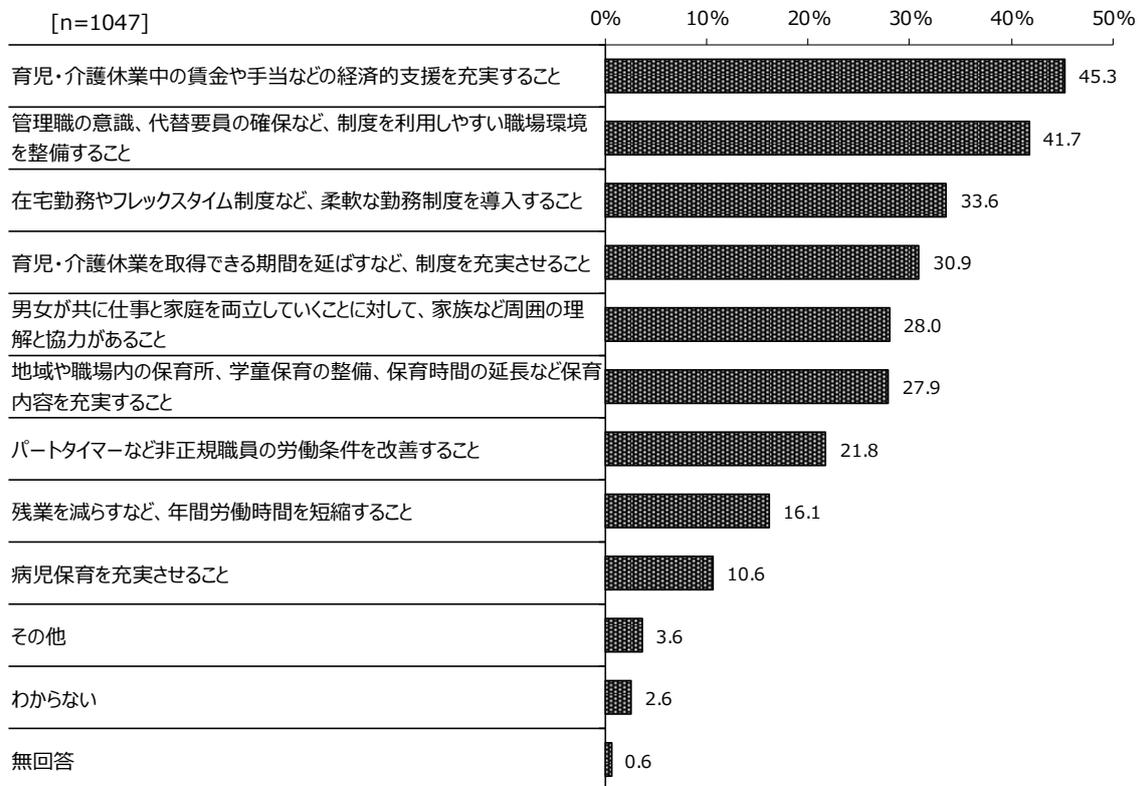


(2) 現実



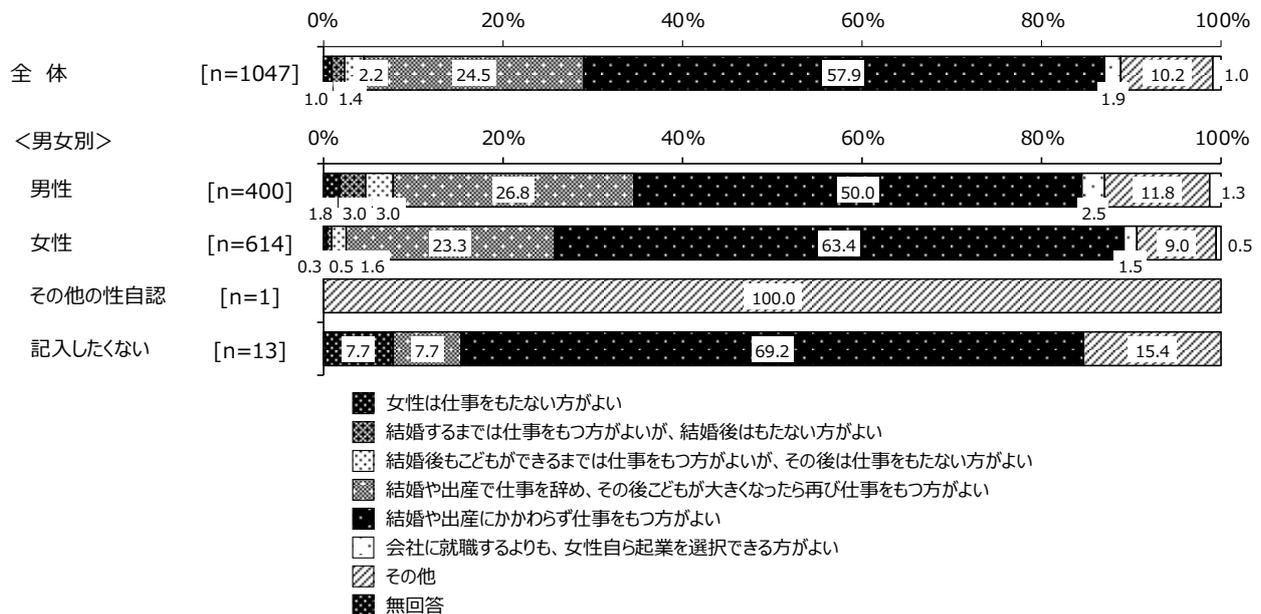
2 男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要な環境整備

- 「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること」が 45.3%で最も高く、次いで「管理職の意識、代替要員の確保など、制度を利用しやすい職場環境を整備すること」が 41.7%、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」が 33.6%となっている。



3 女性が働くことについての考え

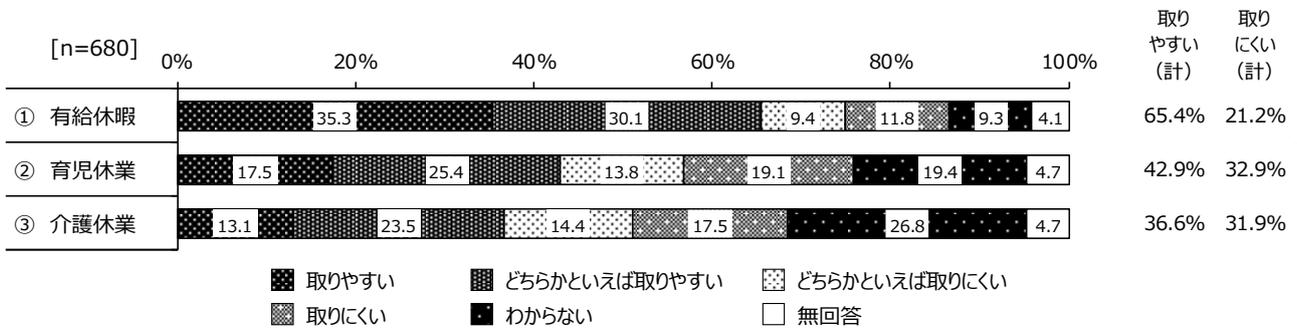
- 「結婚や出産にかかわらず仕事をもつ方がよい」が 57.9%で最も高く、次いで「結婚や出産で仕事を辞め、その後子どもが大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」が 24.5%となっており、「その他」を除くほかの 4 項目は 1 割未満となっている。



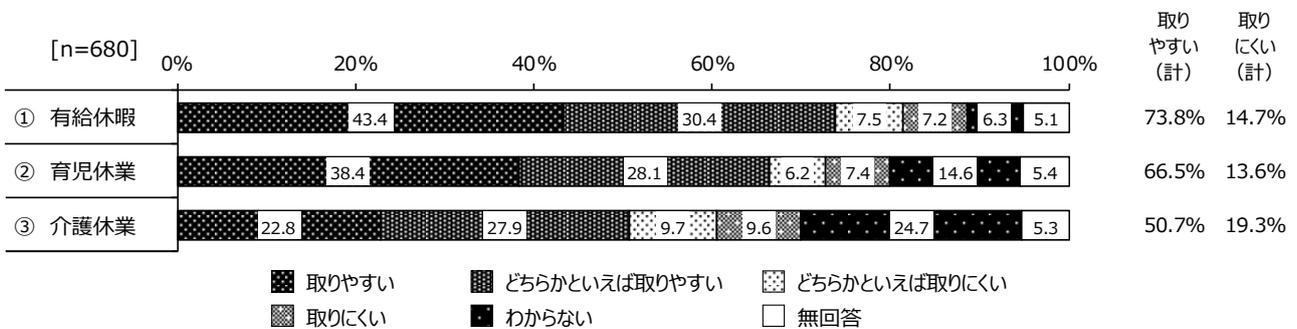
4 職員の休暇・休業の取りやすさ

- 男性職員が「取りやすい（計）」ものは、『有給休暇』が 65.4%で最も高く、次いで『育児休業』が 42.9%、『介護休業』が 36.6%となっている。
- 女性職員が「取りやすい（計）」ものは、『有給休暇』が 73.8%で最も高く、次いで『育児休業』が 66.5%、『介護休業』が 50.7%となっており、いずれも男性職員より高くなっている。

(1) 男性職員



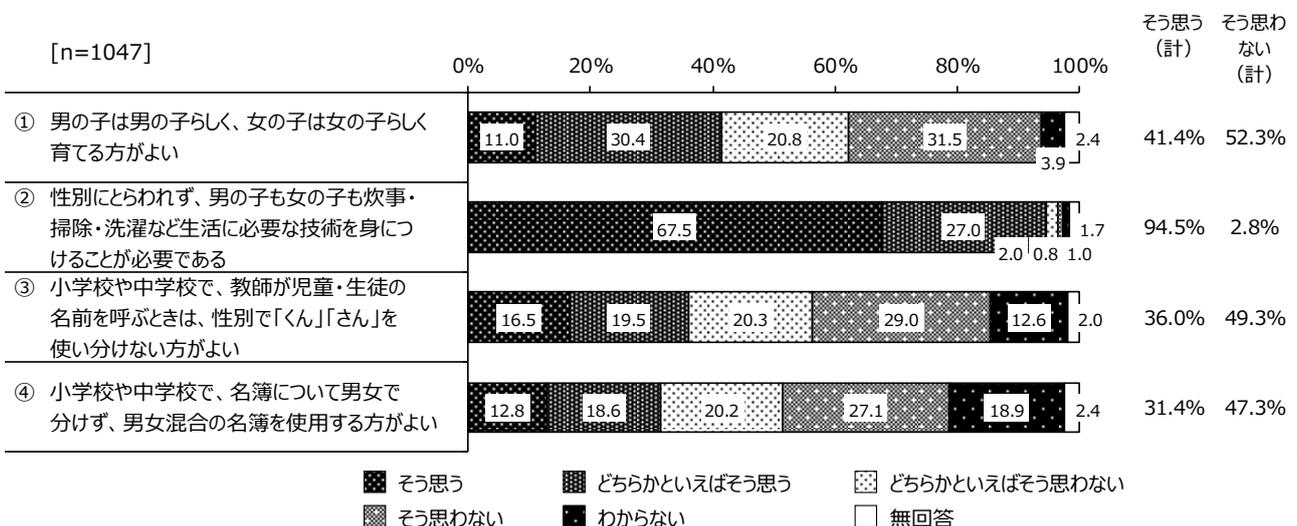
(2) 女性職員



Ⅲ 教育について

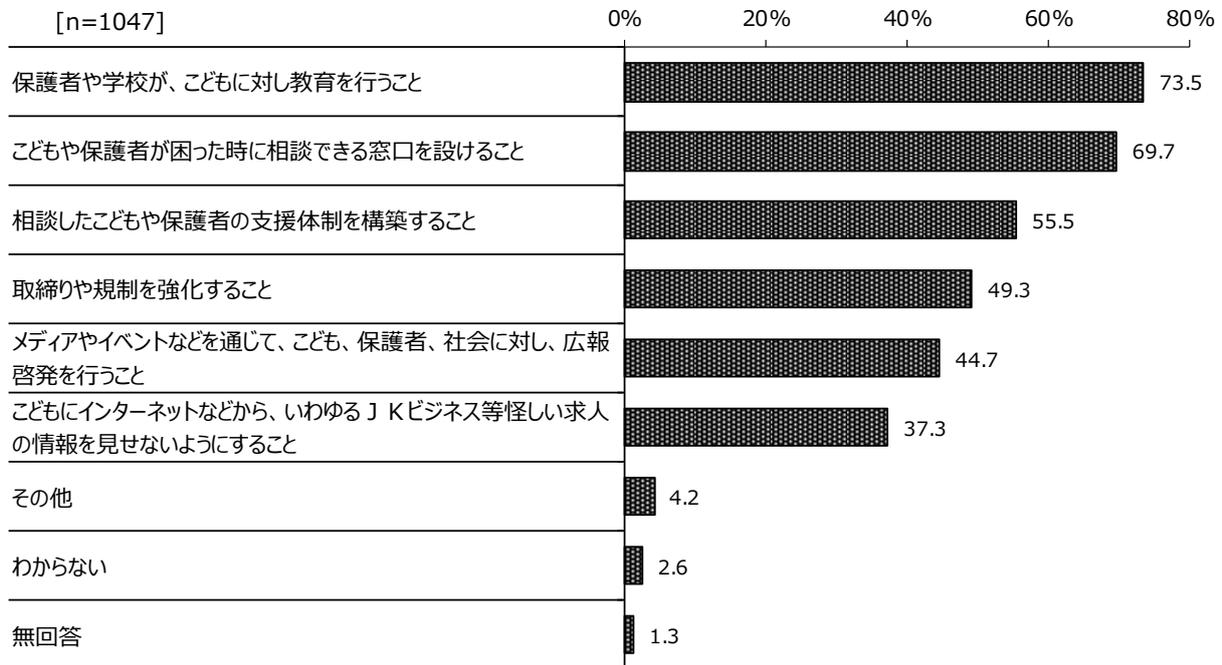
1 こどもの教育における男女平等意識

- 『性別にとらわれず、男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけることが必要である』は「そう思う（計）」が 94.5%となっている。
- 他 3 項目は「そう思わない（計）」が「そう思う（計）」より高くなっている。



2 こどもを性被害から守るために必要だと思うこと

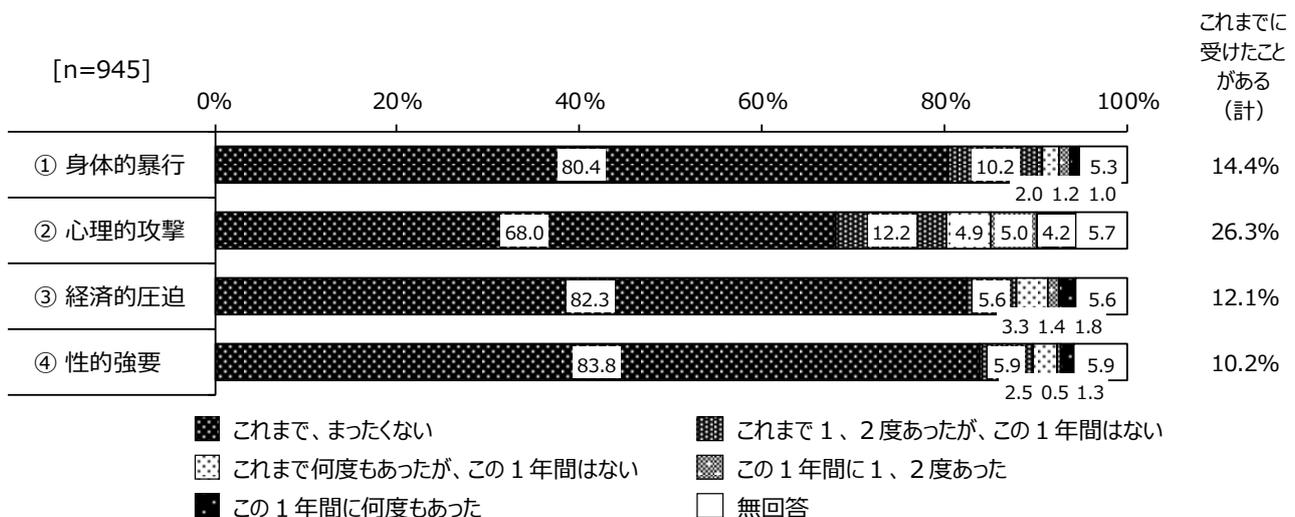
- 「保護者や学校が、こどもに対し教育を行うこと」が 73.5%で最も高く、次いで「こどもや保護者が困った時に相談できる窓口を設けること」が 69.7%、「相談したこどもや保護者の支援体制を構築すること」が 55.5%となっている。上位3項目は5割以上となっている。



IV 配偶者や恋人からの暴力などについて

1 これまでの配偶者や恋人からの暴力などの状況

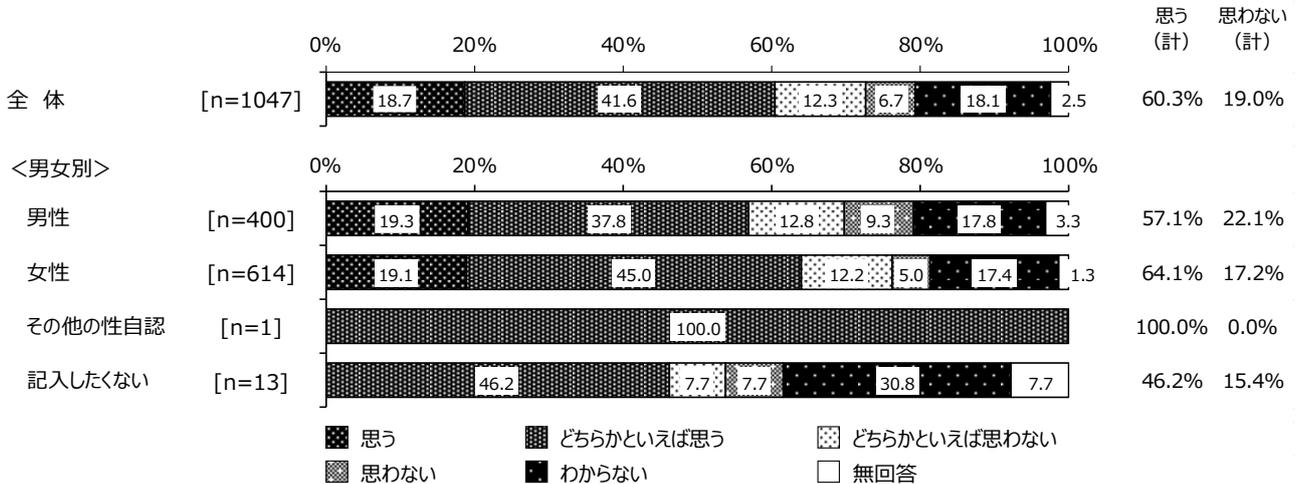
- すべての項目で「これまで、まったくない」が6割以上となっている。一方、「これまでに受けたことがある（計）」は『心理的攻撃』が 26.3%で最も高く、他3項目に比べ1割以上高くなっている。
- ※詳細は報告書本編 80～84 ページを参照



V 性的少数者（セクシュアル・マイリティ）について

1 性的少数者にとって生活しづらい社会だと思うか

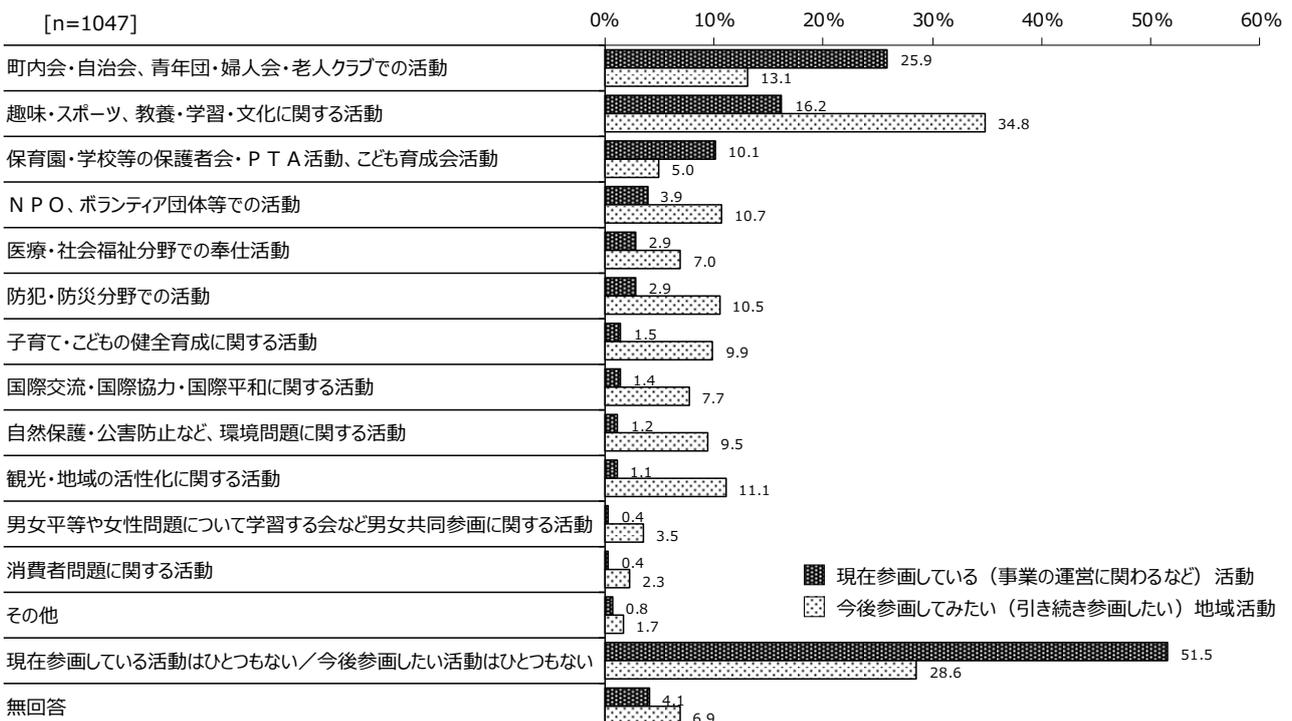
- 「思う（計）」が60.3%、「思わない（計）」が19.0%、「わからない」が18.1%となっている。「思う（計）」は男女とも5割を超え、「思わない（計）」より3割以上高くなっている。



VI 社会活動等への参画について

1 地域活動の参画状況・参画意向

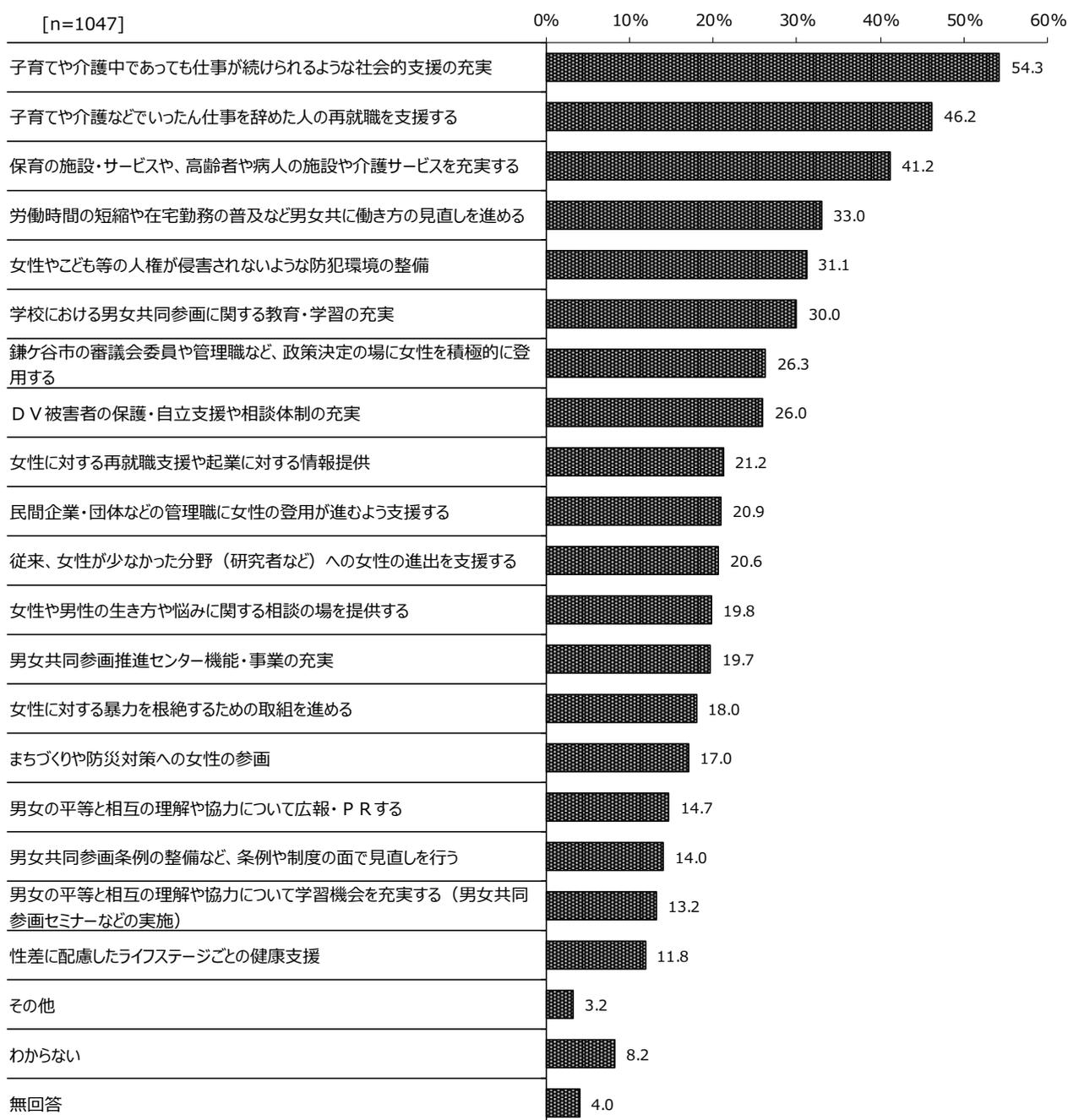
- 参画中は「町内会・自治会、青年団・婦人会・老人クラブでの活動」（25.9%）、参画意向は「趣味・スポーツ、教養・学習・文化に関する活動」（34.8%）が最も高くなっている。
- 「現在参画している活動はひとつもない」（51.5%）は約半数を占めている。一方、「今後参画したい活動はひとつもない」（28.6%）は2割以上低くなっている。



VII 男女共同参画社会に関する行政への要望について

1 「男女共同参画社会」実現のため、市が力を入れていくべきこと

- 「子育てや介護中であっても仕事が続けられるような社会的支援の充実」が 54.3%で最も高く、次いで「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が 46.2%、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が 41.2%、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める」が 33.0%となっている。



令和7年度 男女共同参画に関する市民意識アンケート調査報告書 概要版

鎌ヶ谷市 市民生活部 市民活動推進課 男女共同参画室

〒273-0195 鎌ヶ谷市新鎌ヶ谷二丁目6番1号